

# MicroDry プリントドライバ Ver.3.10 for Windows のご使用にあたって

ここには最新の情報が記載されております。ALPS Micro Dry Color Printer のご使用にあたり、必ずお読みください。

## 本プリントドライバの動作環境について

MicroDry プリントドライバ Ver.3.10 for Windows は、下記の動作環境でご使用いただけます。

### 適応機種：

IBM-PC-AT および その互換機(DOS/V 機)  
NEC PC-9801 シリーズおよびその互換機

### オペレーティングシステム：(Windows3.1 の場合)

PC-DOS (DOS/V)Ver.5.0 以降  
MS-DOS (DOS/V)Ver.5.0 以降  
MS-DOS (NEC-PC98) Ver.5.0 以降

### Windows：

Windows Ver3.1 以降  
Windows 95

また、システム環境は下記を推奨します。

### 印刷時のワークディスク量：

- MD-2000J/2010J/4000J および MD-2300J のフルカラー印刷の場合、ハードディスクの空き容量が 20MB 以上
- MD-2300J のフォトカラー印刷の場合、ハードディスクの空き容量が 100MB 以上

### メモリー構成：

- MD-2000J/2010J/4000J および MD-2300J のフルカラー印刷の場合、8MB 以上(16MB 以上推奨)
- MD-2300J のフォトカラー印刷の場合、16MB 以上(24MB 以上推奨)

## 1. 本プリントドライバに関するアップデート情報

MicroDry プリントドライバでは、下記の内容が追加・変更になりました。

### Ver.3.10 の変更点 (96/11)

- **カラーキャリブレーション機能を見直しました。** これによりフォトカラーモード時(MD-2300Jに限る)の赤みが強かったことが改善されたほか、従来機のフルカラー印刷時でも、**よりモニターの発色に近い自然な色を再現**できるようになりました。

### Ver.3.00 の変更点 (96/10)

- **MD-2300J**に対応しました。MD-2300J で使用した場合は**フォトカラーモード**が利用できるようになりました。
- **カラーキャリブレーション機能**が搭載されました。これにより、フォトカラーモードばかりでなく従来機のフルカラーモードの場合でもモニターの発色に近い印刷結果が得られるようになりました。
- プリントドライバのタグにドライバの**設定順が数字で付与**されました。番号順に設定を進めれば、ドライバの設定が正しく行えるように改良いたしました。
- **メタリック・シルバー**を印刷指定する場合、多色分解時は緑に、メタリック+フルカラー時にはグレーに指定していましたが、**多色分解時でもグレーを指定すればメタリック・シルバーが印刷**できるようになりました。また、そのときの**色割り当てを Macintosh 版と互換性**がある値に変更しました。
- **300dpi**での**ディザ表現**を改善しました。

### Ver.2.00 の変更点 (96/5)

- **MD-2010J/4000J**に対応したため、以下の機能が追加されました。(下記4項は MD-2000J では対応していません。)
  - ◇印刷後の用紙待機(ページ合成機能)による**白パス印刷**に対応しました。
  - ◇**メタリック・シルバー**に対応しました。
  - ◇**光沢転写フィルム**に対応しました。
  - ◇**専用OHPおよびアイロンプリントシートへの紙用インクカセットでの印刷**に対応しました。
- **1200×600dpi**モードに対応しました。(全機種)
- **インクカセット・紙用・マルチカラー**の印刷に対応しました。さらに、インクカセット・紙用・マルチカラーを利用した**メタリック+フルカラー同時印刷**に対応しました。(全機種)
- エラー発生時、印刷の停止要因を取り除いた場合に警告ダイアログが自動的に復帰する機能を追加しました。(全機種)

## Ver.1.20 の変更点 (96/2)

- 鏡像印刷が追加され、アイロンシートの印刷に対応しました。
- □□マスタへの印刷に対応しました。
- メタリックインクの複数同時印刷に対応しました。
- Windows95上で一部のワープロソフトで印刷したときに一般保護違反になるエラーを解決しました。
- Windows95で文字や背景色に色が付かない不具合を解決しました。

## 2. お使いのコンピュータ環境と機能制限について

### ■説明に用いている例について

以下およびマニュアルなどにおける説明は、お使いのコンピュータおよび **Windows** について、ある程度の知識をお持ちになっていることを前提としています。

画面に表示される内容や操作などについては **Windows95** で**お使いになる場合**を例として説明します。**Windows3.1**で**お使いになる**場合にはマニュアルなどに記載されている内容が実際とは異なることがありますのでご注意ください。

### ■スプーラの設定について

**MicroDry** プリンタドライバのスプーラ設定は、標準で **MicroDry Process Spool Manager** (双方向モード) が有効に設定されています。このほかに、**Windows スプーラ** (プリントマネージャ) を有効とする印刷モードがあります。以下のような使用環境の場合、**Windows スプーラ** (プリントマネージャ) を有効とする印刷モードに変更する必要があります。

#### 【スプーラ設定の変更が必要な場合の例】

- ◆ ご使用のプリンタポートが双方向通信に対応していない場合。(例：NEC PC-9821Ap 以前の PC98 シリーズ、およびエプソンの PC98 互換機)
- ◆ コンピュータとプリンタの間に切替機やプリンタバッファが挿入されている場合。(全線切替型、Windows95 対応型は除く)
- ◆ NetWare や Windows95/NT 等のネットワーク機能を使用してプリントサーバに設定したコンピュータを経由して MD プリンタからリモート印刷を行う場合。
- ◆ NEC PC98 シリーズまたはエプソンの PC98 互換機から増設型双方向プリンタインターフェースカードを使用して印刷を行う場合。
- ◆ 何らかの障害のため、双方向通信モードで安定した印刷が行えない場合。(例：使用するケーブルなどが双方向通信に非対応の場合)

現象：このような状態で **MicroDryProcess Spool Manager** (双方向モード) から印刷を行うと、プリンタのエラーランプが消灯している(正常に待機している)にも関わらず、印刷中に「用紙がありません」のエラーメッセージが出ます。

ご使用のコンピュータが双方向インターフェイスに対応しているかどうかは、コンピュータ本体のマニュアル/ガイドなどをご覧になるか、お買い求めになった販売店あるいはメーカーにお問い合わせください。

#### 【スプーラ設定の変更方法】

##### 1. **MicroDryProcess Spool Manager** (ALSPLMGR.EXE) を起動します。

【例 1】Windows3.1 ではプログラムマネージャの [実行] を、また Windows95 ではタスクバーの [スタート] をクリックし、さらに [ファイル名を指定して実行] で **ALSPLMGR** と入力し [OK] をクリックします。

【例 2】Windows3.1 では [ファイルマネージャ] から、また Windows95 では [エクスプローラ] から Windows\System ディレクトリ内の **ALSPLMGR.EXE** をダブルクリックします。

##### 2. **MicroDryProcess Spool Manager** が起動しましたら ("Micro Dry™ Process Spool Manager" の画面から) [印刷キュー] さらに [設定] をクリックします。

##### 3. [印刷キュー設定] の [□ Windows の Print Manager を使用] をクリックして設定を切り換えます。

- **OFF** (□ が空白の状態) …… **MicroDryProcess Spool Manager** を使用する
- **ON** (□ に × の入った状態) …… **Windows スプーラ** を使用する

##### 4. [OK] をクリックして設定終了です。

そのほかの機能については [HELP] で表示される内容でご確認ください。

### 【 Windows スプーラ設定時の注意】

Windows スプーラ(プリンタマネージャ)でお使いになる場合は[コントロール]欄~[アプリケーション]を指定し、[接続]をクリックして[プリンタの接続]の内容を確認してください。

ここで[  高速に印刷 ]が OFF (  が空白の状態 ) となっていた場合は、 **ON** (  に X の入った状態 ) にしてください。

### ■ プリンタ初期化コマンドについて

IBM社の Windows3.1 環境などでは[コントロール]欄~[アプリケーション]から[接続]をクリックすると、DOS プリンタ (例えば IBM ProPrinter など) を想定した **プリンタ初期化コマンド** が出力される場合があります。これらはプリンタドライバが正規に出力したものではない、つまり **MD プリンタ** をお使いいただく上では無用なものであり、場合によっては、下記現象を引き起こします。

- 1) 印刷を行うと印刷中のページ間に不正なテキストデータとして (例えば用紙の先頭に唐 q 類などの文字が) 出力される。
- 2) 手差しモードで用紙を設定した場合、用紙をセットした後に印刷を実行すると、セットした用紙が排出されてしまう。

このような場合は Windows ディレクトリ (例えば C:\WINDOWS) 内の **SYSTEM.INI** ファイルの [printer] セクションの中の次の 2 行をコメント行としてください。

```
;lptswitch.1=$IBMAPRN, 1B7E12000110, 1B7E12000111  
;lptswitch.2=$IBMAESP, 1B74011B5200, 1B74021B5208  
↑この2行の先頭にセミコロン(;)を入れてコメント行とします。
```

なおこの修正は、別のプリンタをお使いになる場合は必要となる場合がありますので、必要に応じて元にもどしてください。

## 3. ドライバの操作手順と各種設定方法について

### ■ はじめに印刷文書を設定してください

本ドライバには次の 6 つのダイアログがあります。

[ 4: カラー印刷品質(R) ] [ 5: イメージ調整(I) ] [ 6: ハーフトーン(I) ]  
[ 1: 印刷文書(D) ] [ 2: 用紙選択(M) ] [ 3: 用紙(P) ]

このうち **先ず [1: 印刷文書] のダイアログの [ドキュメント設定]** から設定を始めてください。また始めに設定した内容は以降印刷を実行するまで変更しないようにしてください。

[ドキュメント設定] の内容を基準として残りの 5 つのダイアログの内容が推奨値に設定されます。

後からこの基準を変更すると、せっかく設定した他の内容がリセットされる場合があります。また一部の項目には他の項目の設定内容によって自動的に変更されるものもあります。

このような設定の矛盾を回避するために、印刷設定はダイアログのタブに付与された番号順に行ってください。つまり、

1: 印刷文書(D) → 2: 用紙選択(M) → 3: 用紙(P) → 4: カラー印刷品質(R) → 5: イメージ調整(I) → 6: ハーフトーン(I)

という順に設定します。

印刷を実行する前には **すべてのダイアログの内容が正しく設定されているか** あらかじめ確認されることをお勧めします。設定内容を確認する場合も、この順番で行うようにしてください。

### ■ [ドキュメント設定] を [自動] とした場合のご注意

[ドキュメント設定] を [自動] とした場合は、ドライバが印刷データの内容を調べて自動的に最適と判断したモノクロまたはカラーの制御を行います。

[自動] による印刷結果が **希望するカラー調整にそぐわない** ときは [ドキュメント設定] を印刷データにあわせて正しく選択してから、新ためて各ダイアログの設定を行ってください。

また [自動] が選択されるとドライバはフルカラー印刷を前提として [カラー設定] を内部的に **フルカラーモードに固定** します。

このときは、以下の点に注意してください。

- ◆ 印刷データがモノクロのデータであったとしても、双方向インターフェイスでお使いの場合はインクカセットホルダにシアン、マゼンタ、イエロー、ブラックの 4 巻のインクカセットがセットされていることが要求されます。
- ◆ カラー印刷を前提にするため、モノクロ 1200dpi モードが選択できません。

これらを回避したい場合は、「自動」でなく「グレースケール」か「ドラフト」を選択してください。

## ■[ドキュメント設定]を[カスタム設定文書]とした場合のご注意

[ドキュメント設定]を[カスタム設定文書]としてから設定した内容は、原則として他の設定内容によって自動的に修正されることはありません(ただし一部の項目については仕様上の制限からやむを得ず変更される場合があります)。

[カスタム設定文書]を選択して印刷を実行する場合には、すべてのダイアログの内容が正しく設定されていることを必ず確認してください。

なお、[1:印刷文書]で設定された推奨値を変更した場合は、その印刷文書は、それ以降「カスタム設定文書」として扱われる場合があります。これは設定内容が**推奨範囲を外れている**ためです。この場合は設定内容に誤りがないかをもう一度よく確認してから印刷を実行してください。

## ■インクカセット・紙用・マルチカラーインクリボンについて

インクカセット・紙用・マルチカラーは、以下のような場合にご使用いただけます。

◇黒印刷が主体の印刷でワンポイント的にカラー印刷を入れたい場合に、**インクカセット・紙用・ブラック**を3本と**インクカセット・紙用・マルチカラー**をセットして連続印刷を行うことができます。

◇メタリックインク(4種類のうち2本まで。ただし MD-2000J は、3種類のうち2本まで。\*1) + **インクカセット・紙用・マルチカラー** + **インクカセット・紙用・ブラック**の、計4本のインクカセットをセットすることでメタリック+フルカラーの同時印刷が行えます。

なお、**インクカセット・紙用・マルチカラー**ご使用の際は以下の点にご注意ください。

◆**インクカセット・紙用・マルチカラー**は印刷時のインク消費量が多いため、通常のカラー印刷にはシアン、マゼンダ、イエロー、ブラックの4巻のインクカセットをお使いください。

◆プリンタとコンピュータ間の通信設定が**片方向設定**の場合はプリンタドライバがマルチカラーモードを認識できません。インクの無駄送りが多くなりますので、片方向設定では**インクカセット・紙用・マルチカラー**はご使用にならないでください。

◆**インクカセット・紙用・マルチカラー**でカラー印刷を行った場合は、インクのつなぎ目部分が通常より目立つ場合があります。

## ■[ドキュメント設定]を[メタリック・カラー]とした場合のご注意

[ドキュメント設定]を[メタリック・カラー]とした場合には、さらに[カラー設定]で[特色カラー(単色)]あるいは[特色カラー(多色分解)]のいずれかを選択します。

### MD-2000J の場合

メタリック・カラー印刷にはメタリックゴールド、メタリック・レッド、メタリック・ブルーの3種類のメタリック・インクカセットの他に紙用・ブラックのインクカセットが同時に使用できます。ただし、**メタリック・シルバー**はご利用いただけません。

### MD-2010J/2300J/4000J の場合

メタリック・カラー印刷にはメタリックゴールド、メタリック・レッド、メタリック・ブルー、メタリック・シルバーの4種類のメタリック・インクカセットと、紙用・ブラックのインクカセットの中から4本同時に使用できます。

・**単色印刷**の場合はインクカセットホルダ**1**(向かっていちばん左側のホルダ)にセットされているインクカセット**1**種類のみで印刷が行われます。(複数のメタリック・インクカセットを同時にセットした場合は、印刷直前に印刷するメタリックカラーを選択することも可能です。)

・**多色印刷**の場合はアプリケーション上で文字や図形に対して指定されている色に、次の表のようにインクカセットを対応付けて印刷を行います。なおインクカセットはいずれのインクカセットホルダにセットしていても構いませんが、必要なインクカセットがセットされていない場合は、その色の部分は印刷されません。

なおプリントスタジオをご使用の場合は、カラーパレットよりメタリックカラーの色を選択すれば、メタリックインクに対応したカラーが自動設定されます。

メタリックカラー	指定する色
メタリック・ゴールド	黄色(ややオレンジがかった黄色)
メタリック・シルバー*1	グレイ、緑色
メタリック・レッド	マゼンダ(紅色)、赤色(紅に近い赤)
メタリック・ブルー	シアン(水色)、青色(水色に近い青)
黒	通常の黒(R=G=B=0 または C=M=Y=0,K=100)

\*1 MD-2000J ではメタリック・シルバーはご使用になれません。

・片方向インターフェースでお使いの場合は、インクカセットホルダにセットされているインクカセットをドライバ側で判断することができませんので必ず次のようにセットしてください。

#### MD-2000J の場合

ホルダ番号	セットするカセット
ホルダ 1	メタリック・ゴールド
ホルダ 2	メタリック・レッド
ホルダ 3	メタリック・ブルー
ホルダ 4	黒

#### MD-2010J/2300J/4000J の場合

ホルダ番号	セットするカセット
ホルダ 1	メタリック・ゴールド
ホルダ 2	メタリック・レッド
ホルダ 3	メタリック・ブルー
ホルダ 4	メタリック・シルバー

・色成分指定ができるアプリでは以下のような色指定を行ってください。

#### RGB 成分指定 (n/255)

メタリックカラー	R	G	B
メタリック・ゴールド	225	160	0
メタリック・シルバー*1	189	193	197
メタリック・レッド	163	36	115
メタリック・ブルー	0	176	201

#### RGB 成分指定 (n/100%)

メタリックカラー	R	G	B
メタリック・ゴールド	88	63	0
メタリック・シルバー*1	74	76	77
メタリック・レッド	64	14	45
メタリック・ブルー	0	69	79

#### YMCK 成分指定 (n/100%)

メタリックカラー	C	M	Y	K
メタリック・ゴールド	12	37	100	0
メタリック・シルバー*1	26	24	23	0
メタリック・レッド	36	86	55	0
メタリック・ブルー	100	31	21	0

\*1 MD-2000J ではメタリック・シルバーはご使用になれません。

#### 【ご注意】

アプリケーションによっては、表記「色成分」指定を行ってもアプリケーション内で自動的に色調整が行われてしまい、指定した色のメタリックカラーが印刷されない場合があります。そのような場合は、色成分の値を増減してお試しください。

また、はじめて印刷する場合は小さなサンプルを作成して、指定したメタリックカラーが印刷されるかお試しいただくことをお勧めします。

#### ■ [ドキュメント設定]を[メタリック+フルカラー]とした場合のご注意

[メタリック+フルカラー]の設定では、メタリックインクとフルカラー印刷を同時に印刷することができます。以下の手順を参考にしてください。

- (a)メタリック部分とフルカラーの部分と同じデータ内に作成します。
- (b)メタリックに指定したい部分を、前項の[メタリック・カラー]の色指定データを参照してアプリケーションから色指定します。  
(プリントスタジオの場合は、メタリック用パレットの色に設定してください。)
- (c)印刷したいメタリックカラーのインクカセット(2種類まで)と、インクカセット・紙用・ブラック、インクカセット・紙用・マルチカラーを同時にインクカセットホルダーにセットします。
- (d)プリンタドライバーの[ドキュメント設定]を[メタリック+フルカラー]に設定して印刷を実行します。

これにより、メタリック指定した部分だけがメタリックカラーで、ほかの部分はフルカラーで同時に印刷することができます。

なお、「インクカセット・紙用・マルチカラーインクリボンについて」、「[ドキュメント設定]を[メタリック・カラー]とした場合のご注意」、なども合わせてお読みください。

## ■ [ドキュメント設定]を[ラベカフリー・シート]とした場合のご注意

[ドキュメント設定]を[ラベカフリー・シート]とした場合には、さらに[カラー設定]で[特色カラー(単色)]あるいは[特色カラー(多色分解)]のいずれかを選択します。

ラベカフリー・シート印刷には黒、赤、青の3種類の専用インクカセットが使用できます。

・**単色印刷**の場合はインクカセットホルダ1(向かっていちばん左側のホルダ)にセットされているインクカセット1種類のみで印刷が行われます。

・**多色印刷**の場合はアプリケーション上で文字や図形に対して指定されている色に、次の表のようにインクカセットを対応付けて印刷を行います。なおインクカセットはいずれのインクカセットホルダにセットしていても構いませんが、必要なインクカセットがセットされていない場合は、その色の部分は印刷されません。

インクカセット・LabecaFREE・ブラック	インクカセット・LabecaFREE・レッド	インクカセット・LabecaFREE・ブルー
<b>黒色指定</b> R=G=B=0% C=M=Y=0% K=100%	<b>赤色指定</b> R=99% G=B=0% C=K=0% M=Y=100%	<b>青色指定</b> B=99% R=G=0% C=M=100% Y=K=0%

片方向インターフェースでお使いの場合は、インクカセットホルダにセットされているインクカセットをドライバ側で判断することができませんので必ず次のようにセットしてください。

インクカセットホルダ1 = インクカセット・LabecaFREE・ブラック  
 インクカセットホルダ2 = インクカセット・LabecaFREE・レッド  
 インクカセットホルダ3 = インクカセット・LabecaFREE・ブルー  
 インクカセットホルダ4 = インクカセットはセットしないでください

## 4. モノクロ 1200[dpi]モードについて

1200[dpi]モード使用時の諸注意を説明します。

- ◆ 1200[dpi]モードは、モノクロモードでのみ印刷可能です。
- ◆ 1200[dpi]モードは、600dpiの印刷データをドット補間することにより擬似的に1200dpi×600dpiとして出力しています。このため、一部のアプリケーションでは「601×601dpi」と解像度表示される場合がありますが、印刷結果が1200dpi×600dpiであることに変わりありません。
- ◆ 1200[dpi]モードでの画像データの印刷は、600[dpi]モードとほぼ同等の画質になります。(ドット補間による高解像度印刷では、画像の画素に対してはほとんど効果が無い為です。)

## 5. ディスプレイモードについて

ディスプレイモードが32,000色あるいは64,000色のとき、一部のアプリケーションソフト(エクセル、ペイントブラシなど)から印刷を実行したときにエラーが発生する場合があります。この場合はディスプレイモードを256色以下または1670万色に切り換えてください。



## 6. 添付プログラム〔MD-2000Jコントローラ〕についての補足 < MD-2000J 専用 >

本プリンタドライバディスクには **MD-2000J** コントローラは含まれていません。

**MD-2000J** コントローラとは、従来のプリンタにおけるスイッチ類の設定といった煩雑な操作をDOS環境で設定する場合にご使用いただくプログラムです。

本プリンタではこれを Ver1.20 以前のプリンタドライバのFDの中に添付していますが、このプログラムは**DOSアプリケーション**でお使いにならない場合にはインストールする必要はありません。

DOS環境で **MD-2000J** コントローラをご使用になる場合は、Ver1.20 以前のプリンタドライバディスクからご利用願います。

【ご注意】 **MD-2000J** コントローラは MD-2010J/2300J/4000J に対してはご使用になれません。

## 7. MD-2000Jでの光沢転写フィルムのご使用について

MD-2000Jでご使用の場合は、「用紙の種類」の選択項目に「光沢転写フィルム」のモードは追加されておりませんが、MD-2000Jで「光沢転写フィルム」をご使用になる場合には、以下の設定にてご利用いただけます。

- (1) 「用紙選択」を「厚紙」に指定する。
- (2) 「用紙」の「サイズ」を「A4」に指定する。
- (3) 「鏡像プリント」をオンにする。(□欄をクリックして×印を入れる)
- (4) プリンタの給紙装置を「手差しモード」に切り換える。

以上の手順で印刷を行なってください。

印刷後の「光沢転写フィルム」の転写方法に関しては、「光沢転写フィルム」に添付している「使用上の注意」をお読みください。

## 8. プリンタの機種共存について

### 【 MicroDry プリンタの複数機種共存方法 】

本プリンタドライバは、MD-2000J/2010J/2300J/4000Jに対応しています。従いまして、これらのプリンタドライバを同時にインストールしても問題ありませんが、以下の点にご注意ください。

- ◆古いプリンタドライバが存在する場合は、必ず「プリンタの削除」にて登録削除してから、本プリンタドライバをインストールしてください。
- ◆ALPS製のプリンタで機種が異なるプリンタを使用している場合でも、プリンタドライバの異なるバージョンを共存させないでください。(例：MD-2000JがVer1.2で、MD-2300JがVer3.10のような場合) 旧バージョンのドライバと共存させた場合は、新しい機能が正しく動作しない場合があります。

### 【 MicroDry プリンタと他社製プリンタの共存 】

以下のような場合に、MicroDry プリンタとの共存に問題があることがわかっています。

1. WindowsPrintingSystem(WPS)を搭載したプリンタドライバとは同時に使用できません。MDシリーズを接続すると、イニシャライズ動作等を繰り返す場合があります。MDプリンタを使用したい場合は、他社製 WPS プリンタドライバを削除するか、他社の WPS プリンタの出力先を FILE に変更してください。
2. 一部のページプリンタのプリンタドライバが組み込まれている場合、「々々々々々.....」のような意味不明の文字が出力される場合があります。この場合は、プリンタドライバをコントロールパネルから削除するだけでなく、特定のファイルの設定を[SYSTEM.INI]ファイルから消去する必要があります。削除方法の詳細は、コンフリクトするページプリンタの供給元へお問い合わせ願います。

## 9. カラーキャリブレーション機能に関して

MicroDry プリンタドライバ Ver3.0 より、Windows 上でもカラーキャリブレーションが実現されました。この機能は、デフォルトで有効に設定されます。



### ・カラーキャリブレーションの効果

本機能をご使用になると、カラー写真等の印刷結果に対し以下のような効果があります。

- 1) パソコン画面に表示されている画像に近い色合いに自動調整されます。(フォトカラー印刷時、フルカラー印刷時、共に有効)
- 2) MicroDryProcess のインク特性によりデフォルトモードで再現が不得意だった青空や海の青さが、より自然な青色に近づきました。
- 3) MicroDryProcess のインク特性によりデフォルトモードで全体に青みがかった印刷になる傾向があったことが改善されました。

### ・カラーキャリブレーションを無効にする方法

カラーキャリブレーションを有効の状態で行うと、従来のMDシリーズのフルカラーモード印刷とは異なった発色となります。従来のフルカラー印刷と同じ発色を得たい場合は、下記手順でカラーキャリブレーションをオフにしてください。

- 1) 「プリンタのプロパティ」等から、プリンタ設定ダイアログを起動します。
- 2) [5:イメージ調整]のタグをクリックします。
- 3) [カラーマッチ]の項目から[なし]を選択します。
- 4) [OK]ボタンをクリックします。

【注意】MicroDry プリンタドライバ Ver2.00 以前のドライバでも、[5:イメージ調整]-[カラーマッチ]の設定項目がありましたが、これは機能しておりません。カラーキャリブレーション機能をご使用になるには MicroDry プリンタドライバ Ver3.00 以降をご使用ください。

### MD-4000Jでカラーキャリブレーションをご使用になる場合のご注意:

・MD-4000Jのスキナドライバには独自のカラーキャリブレーション機能が搭載されています。しかし、MD-4000Jのプリンタドライバが待つカラーキャリブレーションと同時に使用するとカラーマッチが正常に行えません。MD-4000Jのスキナから画像を取り込んでプリンタドライバ Ver3.0以降にて印刷を行う場合は、MD-4000Jスキナドライバのカラーキャリブレーションは[スクリーン](キャリブレーション無効)に設定してください。

## 10. その他

Windows環境にMicroDry プリンタドライバをインストールしてお使いいただく上であらかじめ次の点をご了解願います。

- ◆ Windows95でビットマップフォントを使用したときアンダーラインや抹消線が長くなる場合があります( TrueTypeなどのアウトラインフォントでは発生しません)。
- ◆ Windows3.1の[メモ帳]から印刷するときは300[dpi]モードを選択してください。
- ◆ 双方向インターフェイスでお使いの場合、CDマスター印刷で必要な部数・色数の製版が終了したにもかかわらず、印刷を継続するような無用な確認メッセージが表示されることがあります。このような場合は必要な印刷がすべて終了していることを新たに確認し、さらにプリンタの動作が停止していることを確認した後、[キャンセル]をクリックして印刷を終了してください。
- ◆ 印刷中に[通信エラー(Not Responding)]とのメッセージを表示してドライバが停止した場合は、[再試行]をクリックして印刷を続行できるか確認してください。印刷を続行できた場合にはそのまま正常に印刷できます。

-----  
Micro Dry(TM)および MD-2000J, MD-2010J, MD-2300J, MD-4000J はアルプス電気株式会社の登録商標です。  
MS,Microsoft,MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。  
Windows は、米国 Microsoft Corporation の商標です。  
プリントゴッコ、CDマスターは理想科学工業株式会社の商標または登録商標です。  
PC-9801シリーズ、PC-98 は日本電気株式会社の商標または登録商標です。  
その他の会社名、商品名は、該当各社の商標または登録商標です。

アルプス電気株式会社の許可なく本文の一部又は全部を転写並びに複製することを禁止します。

1996年11月 アルプス電気株式会社